

日赤にいがたNEWS

NISSEKI NIIGATA

第4号

令和4年7月

発行

JRC特集



CONTENTS

7月号のテーマは「気づき、考え、実行する」です。
県内のJRC(青少年赤十字)活動をご紹介します。
地域での活動が世界に広がっています。



生徒さんの手作りポスター

胎内市立中条中学校の環境・JRC委員会の発案で、胎内市の全小中学校でウクライナ人道危機救援金の募金活動が行われました。校外でもイオンスタイル中条店で募金活動を行ったほか、胎内市内の商店等に募金箱を設置していただく等、多くの方にご協力いただきました。



気づき、考え、実行する力を育む!



集まった救援金を代表生徒3名が胎内市地区長(胎内市長)に贈呈しました

中条中学校の皆さん

募金活動の様子はテレビでも放送され、中条中学校の皆さんも充実感をもって活動されていたようです。活動時、活動後の心境などお話をうかがいました。

発案者の大滝さん



毎日テレビでウクライナについて報道されていて、とても心が痛く、自分たちにできることは何か考えたときに募金活動을思いました。実際に募金活動をしてみると、思っていたよりも多くの人が協力してくれて、一人一人の力は小さいけれど、みんながやればこんなに多くの募金を集めることができるんだ、すごいな、やって良かったなど感じています。今後は大学生等とコラボしてフードバンクへの支援ができればと考えています。

榎本さん



募金活動をしてみて、小さなことにも協力してくれるあたたかさを持った人がたくさんいるんだと感じました。今後は貧困などで困っている人々の自立のために何か活動ができればと考えています。

前向きに協力してくださる人が多くてあたたかい気持ちになりました。今後は地球温暖化によって困難な状況にたっている生き物を助けるために、募金活動をはじめ、自分にできる活動をしていきたいと考えています。

長谷川さん



石田先生



今年度から環境・JRC委員会を担当することとなり、委員長の大滝さんとどんな活動をしていきたいか話をする中で、今回の募金活動を提案されました。生徒からの提案で動き始めた活動が赤十字を絡めることでこんなに大きな活動になるんだと、とても驚いています。せっかくJRCに加盟しているので、今後も生徒たちと「気づき、考え、実行する」を目標に活動していきたいです。

新潟青陵高校の皆さん

県内各地で、自ら気づき、考え、実行する支援活動の輪が広がっています。新潟青陵高校においても、新潟青陵大学・短期大学にも呼びかけて、6月4日に募金活動を実施しました。



新潟駅前前で募金を呼び掛ける学生たち



多くの方から協力いただきました

ウクライナ侵攻の原因や歴史的背景、両者の考え、世界や日本の対応、自分たちにできることなどを掘り下げ、募金活動単体で終わらないよう、事前学習をしっかり行い、活動の趣旨を確認してから臨みました。



JRC(青少年赤十字)は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びととの友好親善の精神を育成することを目的として、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています。

※新潟県内では、JRC活動に取組む学校・園が263校あります。(令和3年3月末現在)

皆さまの地域での活動が、海を越えて多くの人々を救っています。



赤十字の支援活動

皆さまの地域での活動が、海を越えて多くの人々を救っています。日本赤十字社では、192の国の地域にある赤十字ネットワークを生かしながら、支援活動を続けております。こころのケアのため、ポーランドへ臨床心理士を派遣、また、ウク

ライナ赤十字社の臨時診療所の開設支援のため、薬剤師をウクライナ西部に派遣しております。そして、皆さまからいただいた救援金は、水や食料、医薬品に形を変えて、苦しんでいる人々のもとへ届けられています。それらを現地でより効率的に管理・配分するための調整員も、モルドバに派遣しています。引き続き、赤十字活動へのご協力をお願いします。



国際人道法とは?

武力紛争(戦争)において、負傷したり病気になる兵士、捕虜、そして武器を持たない一般市民の人道的な取り扱いを定めた国際法です。「国際人道法」という名称の条約は存在せず、「1949年のジュネーブ四条約」、「1977年の二つの追加議定

書」「2005年の第3追加議定書」を中心とした、さまざまな条約と慣習法の総称が「国際人道法」です。赤十字は、「より多くの人々が国際人道法について知り、支持することが、紛争当事者によるその遵守を促し、民間人を守ることにつながる。」と国際社会へ強く訴えています。



医療支援



飲料水、食料、医薬品などの物資の提供



こころのケア



救援物資の状態を確認する日赤職員

赤十字の支援活動は、動画でもご覧いただけます。



様々なかたちで新潟県支部の活動を応援して下さる
法人の皆さまにお話を伺いました。



大東産業株式会社 様

<https://daito-adhoc.jp/>



事業内容：省力機械の企画・製作・販売



講習会の様子

製造部門など急病(夏場の熱中症など)や、ケガが発生する可能性の高い部署もあり、従業員の「健康と安全」を守りたいという思いから、応急手当の講習会の開催を検討していました。その時に日赤が講習会を実施していることを知り、社内に新しくAEDを設置するタイミングで、全従業員を対象に赤十字救急法短期講習会を開催しました。

今後も従業員の「健康と安全」を守るために、急病やケガの応急手当に関する講習会の定期的な開催を考えています。その赤十字事業を支援するため、活動資金への協力も続けていきたいと思っています。



代表取締役
加藤 洋介 様



株式会社アイデア 様

<https://www.ideainc.co.jp/>



事業内容：ビジネスソリューション、教育ソリューション、セメント・建材関連事業

個人としても法人としても、資金協力を通じて人道支援活動を行っています。「自分たちが寄付した資金を原資に、赤十字の職員やボランティアの皆様が被災地や紛争地で奮闘している。赤十字を通じて、多くの人のいのちを守るために、闘ってくれている人を応援しよう。」という思いで、寄付を続けています。

また、赤十字を支援する人たちが今後も増えていくように、社員達に赤十字活動の理解者となってもらいたいと願っています。YouTubeで赤十字の活動動画を見る等、赤十字の活動を知ってもらう時間を設けています。



代表取締役
山田 直樹 様



公益社団法人新潟県トラック協会 様

<http://www.nta.or.jp/index.html>



事業内容：貨物自動車運送事業に関する指導・研究・広報



昨年設置した寄付金付
自動販売機と平山総務部長

当協会の大切な事業として災害時の救援物資の輸送があり、赤十字社様の災害救護活動に賛同し社会貢献の一環として、1992年から毎年日本赤十字社新潟県支部へ寄付を続けています。

昨年からは新潟県支部と県・市区町村が合同で行っている「黄色い交通安全帽」の交付事業にも寄付をした他、売り上げの一部が日本赤十字社新潟県支部へと寄付される「寄付金付自動販売機」を2台導入いたしました。

今後も赤十字活動を支援していきたいと考えております。



会長
小林 和男 様

皆さまのご寄付が唯一の活動財源です。

日本赤十字社は公平で中立な活動が求められるため、国や県から補助を受けることなく県民の皆様からのご寄付のみで活動を展開しております。今後もいのちを救うための赤十字活動が行えるよう、皆さまからの温かいご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

